

# 録演

特277

526

特277-526



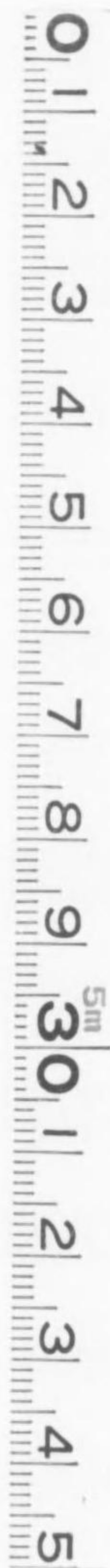
\*76#10465\*

(一) 國体の基礎としての神社

東京帝國大學助教授文學博士 田中義能氏

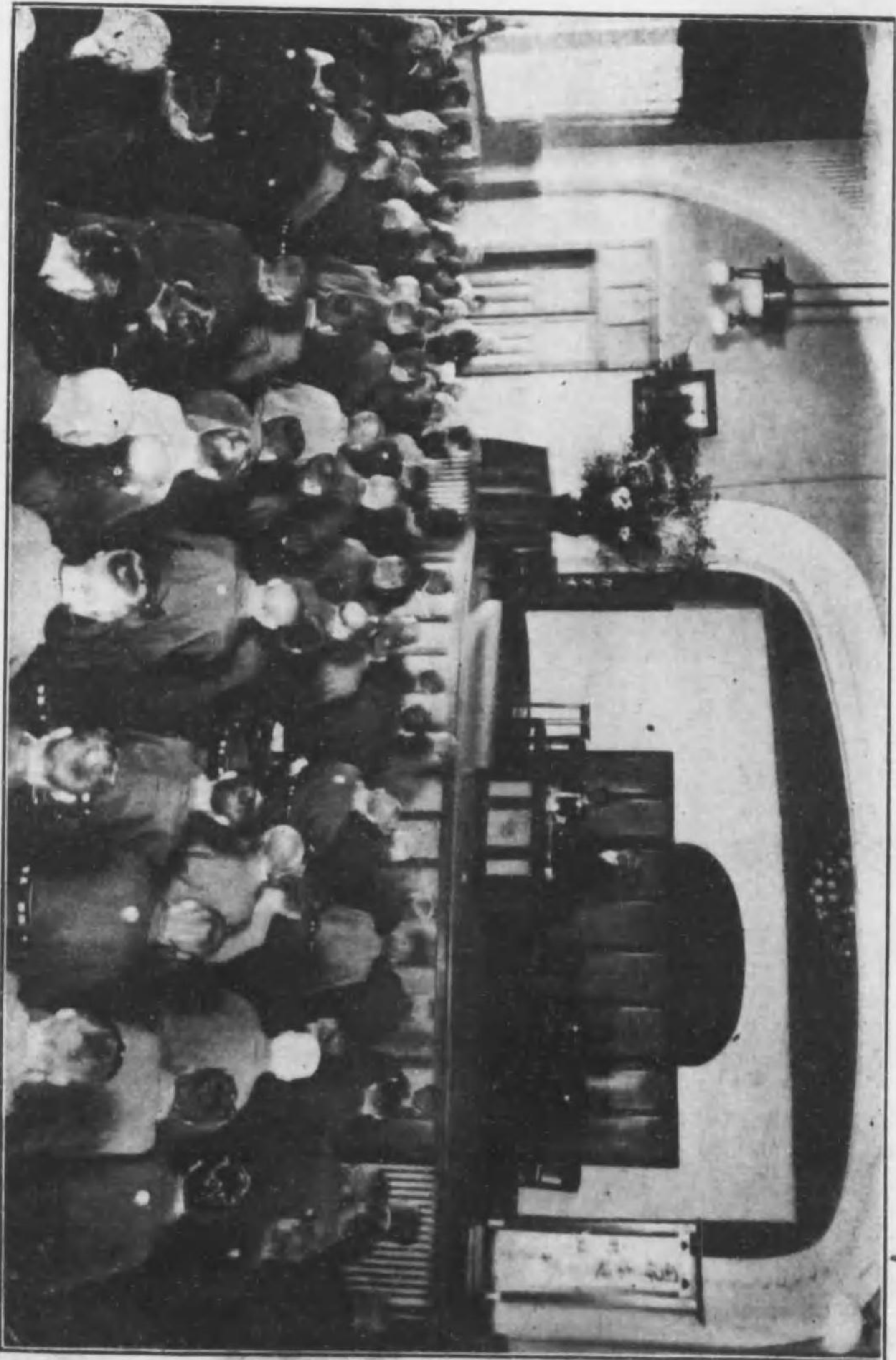
(二) 思想問題に就いて

大阪府女子專門學校長 平林治徳氏



# 始



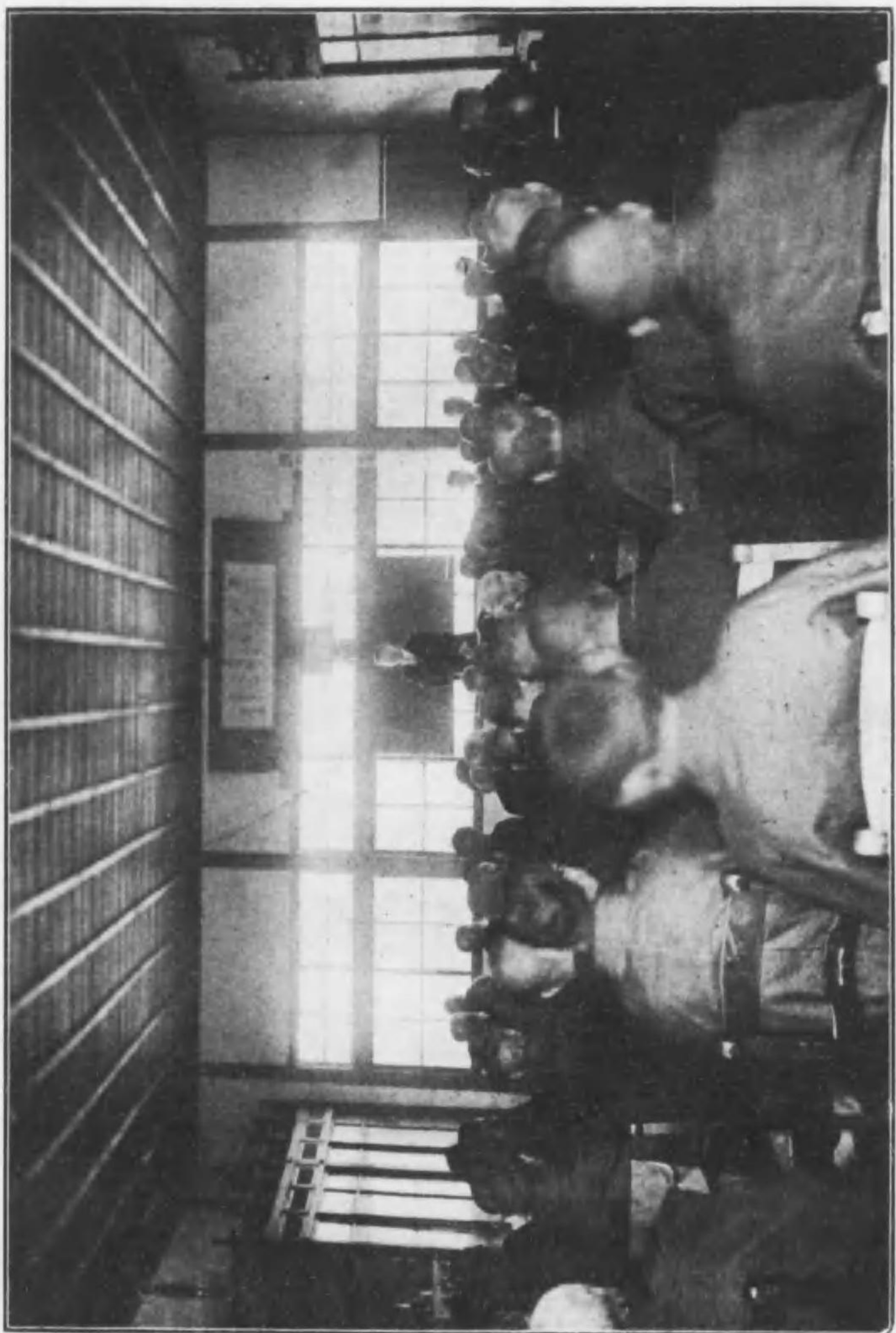


大 阪 府 神 職 大 會 講 演 會 ( 壇 上 に 立 ち ば 中 田 博 士 )

76W10465



豊能郡支部主任催子氏同催子氏總代會(上壇に立はる校長)



## 國体の基礎としての神社

東京帝大助教授文學博士 田中義能

神社は我邦特有のものであつて、全世界何れの國に於ても見るこゝのできぬ組織である。此の神社が我國體に如何なる關係を保つて來つたか、これが如何にして國体の基礎になつてゐるか、私が掲げた題目の下に述べたいのは此の問題である。

今日我邦で用ふる所の言葉の中には西洋の言葉を翻譯したものを用ひてゐるものが少からずある。例へば教育 (Education) にか道徳 (Morality) 倫理 (Ethic) ないふ言葉がそれである。勿論、支那には熟字としてあつたのは事實である。孟子を關し「見ると天下の英才を得て教育するは君子の樂みとする所である」といふてゐる。我邦でも徳川時代には學問をすることを教育といつた。今日のやうな意味で教育といふ言葉を使ふやうになつたのは西洋の言葉を翻譯してからのことであり、又道徳倫理ないふ言葉も其の通りである。或は社會 (Society) にか社會學 (Sociology) といふ言葉でもそれである。つまり明治維新以來西洋の學術思想が盛んに傳來した結果こんなことになつたわけである。

所が「國體」といふ言葉は西洋にはない。無論、支那にはあり、我邦でも舊幕時代から盛に使つて來てゐる。この國體といふ言葉が、今日いふやうな意味を含むやうになつたのは徳川時代以降のことである。それならば「國體」とは如何なる意味か、問はれても、一言で其の意味を的確に表はすことは頗る困難である。之を法律家にいはせるに、國體はその主權の所在にあり

する。これではまだ充分に意を盡せない、君主國體、民主國體といつても、さうも不充分である。先年第五十議會だつたと思ふが、治維法案が上程せられ、其の第一條に國體と政體といふ言葉があつたが、政體といふ言葉は削除せられた。その時、小川法相は國體とは帝國憲法第一條の意味であるといつた。憲法には

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之を統治ス

とある。然し今日我々がもつて範圍を廣くして用ひてゐることは事實である。若し西洋に國體といふ言葉があつたならば、それを參照して解釋するに便利であるが、それが西洋にないから困る。然しこれは我邦特有のものであるから、止む得ない。

先年、教育勅語を英語に翻譯したことがあつたが國體の精華といふ言葉に至つて翻譯の任に當つた學者達は一方ならず苦心した。最初に譯したのが

The fundamental character of our Empire

といふのであつたが、これでは駄目だといふので

The fundamental character of and for our Empire

と譯出した。我帝國の根本特質といふ意味であるが説明的翻譯である。そこで私は先づ國體といふ言葉を説明して見ようと思ふが、日本人一人々々が此の國に生れてから活動するに當つては、祖先からの遺傳といふものが働く。又生れた境遇も影響する。都會で生れたものと山の中で生れたものと、海岸で生れたものと各々境遇を異にするが、個人の活動にはこの環境が大に影響する。かうしたことが個人の性格上の差異を生ずる所以である。又學校教育或は家庭の教育或は社會の教育によつても、性格上の變化がある。尙ほ一個人にしても頗る複雑であるが、そこに個人の特色がある。同じ兄弟、同じ親子であつても性格の相違があるのはかうした環境と教育の關係に原因する。

これと同じやうに、國家にして見ても、山川國土の相違から食物風俗歴史の異ひが、國民性の相異になつて来る。境遇の相異が異つた國民性を作り民族性を産み出すのである。大和民族は數千年前に此の國土に生れて今日に至つてゐるが、この大和民族といふ一大巨人の性格といふものが、從來の關係から他と異つた性格を造り出したのである。個人に在つては人格といふが、私は國體を「國格」と名づけたい。この國格は我邦の境遇が産んだものである。その主要なるものが二つある。その一は地理的であり、他の一は歴史的である。

地理的關係からいへば我日本は四面環海即ち「磯のほつなの國」である。すぐれたものを「ほ」といふところから、此國は四面磯で圍まれたすぐれた國である。石の玉垣をめぐらした國といふと同じである。我邦は土地は狭く、ロシアや支那や米國のやうな大陸ではない。然し氣候は溫和、地味は豊饒である。従つて國民生活が安定してゐる。今日アフリカに見るが如き猛獸毒蛇の被害はなく、住み安い國土である。國民生活が斯の如くに安定してゐるから、故郷を愛するの念が強い。昔他の國々であつたやうに水草を追ふて所定めず轉々として生活するのことは餘程異つた所がある。

豊葦原の瑞穂の國は我子孫の王たるべき地なりと仰せられたのは、此國の悠久偉大なる國家建設の考慮が我々日本民族の祖先に働いてゐたことを語る御言葉ではあるまいか。山川秀麗、従つて國民の精神が美はしく養成せられ、清潔を尊ぶやうになつたのである。「みそきはらひ」のあるわけである。殊に惟神の道は正直を以て最も尊びしめられてゐる。孔子は仁を以て理想とし、佛は慈悲、キリストは愛を理想としてゐる。我國の神道は正直を以て理想としてゐるので、至善にして純乎たる正直である。惟神の理想の現はれは神鏡である。鏡は元來、あらゆる物の姿を真正々明に映寫する。これが國民精神に反映して、

國民は正直を以て理想とするこゝになつたのである。神鏡によつて國民の正直なる心が代表せられてゐるこゝいつてよい。地理的關係からいへば我國は古來、農業立國であつた。國民生活の根柢はここにある。天照大神が稻穂を授け給ふたわけがここにあるこゝがわかる。昨秋の御大典に際しても御祭典の御模様を拜する農業立國の主義が明に窺はれる。この農業立國主義の下に養はれたる我が國民は一定の地域に安住し得る故に家族主義の發達を見るに至つたのである。

次に歴史關係の我が國民生活に及ぼした影響を一瞥するに、これは天孫降臨から初まる。天孫降臨の時には既に先住民族があつて、隨所に割據してゐた様子であつたが、天孫民族は之を融合調和し同化したのである。是は外國に於て見るこゝのできぬ我民族特異の史實である。例へば、英國にはチュートン系のアングロサクソンと先住民族であるアイリッシュがある。アングロサクソンはアイリッシュ族を現在のアイルランドに驅逐したのである。先年、米國大統領ウキルソンが歐洲大戰直後に民族自決主義を提唱したが、これは實に不思議な主張である。何となれば米國內には幾多の民族が未だ融合せずにあるからである。殊に米國內の獨逸種の如きは盛に獨逸語を學校で其の子弟に教へてゐる。私の知人が米國へ行つた時に、其の學校を參觀したが、校長は其の人に向つて獨逸語で何か話してくれといふこゝであつたから、知人は獨逸語で一場の話をした。するま校長は後から、生徒に向つて、こんな偉い大學の先生も、獨逸語の必要を認めてお話する位だから、諸君は大に獨逸語を重んじ尊まなくてはならぬと語つたさうである。米國に移住してゐる獨逸人は祖國の言語を忘れまいこゝに努力してゐる。ウキルソンの民族自決主義なるものが、米國で行はれるこゝになれば米國は四分五裂になるであらう。又ウキルソンは歐洲大戰に出征する兵士を激勵して、米國は建國以來外國の侵略を受けぬ國であると言氣張つたものだ。所が建國僅に二世紀立つか立たぬ短い歴史を有する米國が、他國の侵略に遭つたこゝがないと威張つて見ても、それは實に我邦の如きそれに十五倍もする長い歴史

を保持する國家に於て一度たりとも外國に蹂躪せられたこゝがないといふのは比較にならぬ。若し夫れ、今後、今日の狀態で米國が發達すれば小國分立の歐洲の如き地圖ができはしないかといつた學者もあるが、これは寔に面白い觀察であるといはなくてはならぬ。要するに歐洲個々の國にしても、人種上の融和はなく、米國でも其通りである。然るに我邦では幾多の種族を融合統一して、國家が完全に統一せられてゐる。これが日本の國體の歴史的特色の顯著なる所以である。

これは統治に當らるる歴代の天皇が徳を樹て給へるこゝ教育勅語に「我皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ」にあるが、これが今日日本民族が全然融合統一してゐる原因である。支那の桀紂の如き悍惡なる王者なく、英國のジョンやチャーレス一世の如き殘忍酷薄なる帝王もない。ジョンの如きはローマ法皇の怒りに觸れて、法王の怒を忍むべく、國を法皇に献じたといふやうな亂暴極まるこゝもなく、又ローマ皇帝ネロが國內のクリスチャンを捕へて、身に油や蠟を塗つて之を宮殿に立たせて、それに火を點けて照明に代へて大宴會をやつたり、クリスチャンを獅子と闘はして、其の殘忍極まる死に様を見て楽しんでいふやうなこゝもない。我邦の皇室は國民を指して「オホミタカラ」と呼ばせ給ふ程に國民を極力愛護させ給ふこゝ三千年の長く美しき歴史を有つてゐる。明治天皇の御製に

罪あらば我をさがめよ天津神たみはうみにし我子なりせば

ごあるが、これは如何に我が皇室が國民に對して特別なる大御心をさめさせ給ふかを現はしたものであつてよい。國民は此の尊くも恐れ多い歴代皇室の大御心の程に對し奉りて深く感泣しなくてはならぬ。皇室の畏き大御心に對する國民赤心の現はれまゝしては大友連の歌がある。即ち

海のかばみづくかばね山ゆかばこけむすかばね大皇の邊にこそ死なめ願ひはせじ

日本人は天死をせぬ。大君の馬前でいさぎよく戦死する。これが日本人が天皇に對する心持である。即ち君民一体、忠孝一致これが日本國民の道德の理想である。日本の地理的並に歴史的關係が、日本の君民をかく堅く結ばしめたのである。萬世一系の國体はかくしてつくられたのである。

所が此の美はしく崇高なる我が國体の根本に「神社」があることをさうしても認めなくてはならぬ。高産靈神の御言葉に「ひもろぎいわくら」「いわハ堅固。くらハ座」<sup>（一）</sup>といふ言葉があり、又「もり」「むろ」<sup>（二）</sup>といふ言葉がある。森々たる森林の中に神様がゐる給ふ。大和の御室山（ひもり）には大國主命の神靈を祀つてあるが、宮のこゝをみむろ、こいつたのでそれが山の名となつたわけである。それは大師といへば弘法のこゝをいふと同じである。神社建設のこゝは「ひもろぎ、いわくら」<sup>（三）</sup>といふ言葉から來てゐる。神靈の居給ふ所が神社であるが神社は「ひもろぎ」で、そのひもろぎを「いわくら」に建設する。これが神社建設の最初の趣旨であつた。而して此の神は國民の祖先の靈である。我國家の基礎はかうした基礎（即神靈—神社）の上に置かれてゐる。つまり國家の基礎は我々の祖先の靈を祀れる神社にあるのである。

神社に海の神や山の神を祀るのはさういふわけであるかといへば、この神は我々日本人の祖先であるからだ。海の神といひ山の神といつても支那や西洋でいふそれとは全然意味が異つてゐる。支那や西洋の海神とか山神といふのは所謂海山の神靈であり、これをいひかへれば海山の精神といつたやうなものである。我邦の山の神は大山祇神であつてこの神は此花咲耶比賣の父君に當らせられる。而してこの比賣は瓊々杵尊の后ならせられた。大海神（わたつみのかみ）は豊玉媛の父君であらせられ豊玉媛は鸛茅齋不命の母君であらせられる。かくの如くに以上の二神（山、海）は皇室の外戚に當るに共に、國民の祖先である。他面に於て皇室と我々國民との祖先が一つであり、かくして此の國体も創造せられたこゝが明にせられる。

祖先崇拜のこゝが外國のこゝと異ふこゝは以上述べ來つた如くである。南洋の土人や支那人の間にも祖先崇敬の念はあつても、我國の如くに最初の祖先以來之を祀るこゝはなく、南洋の土人等は極めて近い祖先を祀り、支那では六代もすればそれ以前の位牌の如きも焼き棄てるこゝはなかつたやうな風習になつてゐる。アメリカインディアンの如きも最初の祖先を祀つてはゐるがそれはトーテム（天然物及動物崇拜）神として祭るのであつて、動物でも植物でも祖先として祀るのであるから我邦の如き意味はない。そして彼等は祖先の精神を受けるために、その動物や植物を食ふこゝは風がある。我々日本人の祖先はトーテム的な龜や犬や猫のやうなものではない。祖先崇拜を指して野蠻の遺風であるといふものもあるが、然しそれは誤つた考へ方である。要するに日本以外の國土では嚴密なる意味に於ての祖先崇拜がないのである。

此の我邦特有にして諸外國になき祖先崇拜は我邦の家族制度と離れるこゝのできぬ關係がある。由來、日本民族の家長は祖先の靈を祀るを以て家長任務の第一義とする。これが祖先崇拜が家族制度に多大の影響を及ぼす所以である。

西洋に祖先崇拜の行はれぬわけは、各種族が混合してゐて、祖先そのものが明瞭でない、祖先の血統が判然しないといふ點にあると思ふ。又家族は一代限りであるから家は絶へて仕舞ふのである。家本位でなく個人本位だから祖先崇拜の觀念も起らず、家族制度なるものも發達せない。之に反し、我國は四面環海即ち已に述べ來つた地理的關係によつて、祖先傳來の血統を殆ど完全に明にするこゝができ、従つて歴史的關係が祖先崇拜を盛ならしめたのである。

我邦では祖先崇敬の爲に神社を建設し、之によつて我々の過去を考へ、子孫の爲に大に計る所がある。即ち過去の祖先と我等と我等の子孫とを一貫して結ばしめるものは神社である。こゝに家族制度が生れて來る。従つて忠孝の道も發揚せられるのである。西洋では我國で見ると如き孝道はない。それは親子夫婦すべて個々別々だからだ。それで家族といふものが打つて一

團ならぬ。家族制度も生れなければ従つて孝行といふこゝも殆ど必要がない位である。孝道は眞に神社と同じく我邦特有のものであるといへる。

西洋では定年に達するまでは親が子供を育てる義務がある。子供が親に育てられるのは當然のこゝであるといへる。親の方から見るに子供といふものは少々邪魔になるのである。中にはタマの日曜日あたりに夫婦が手に手をこつて遊びに行く邪魔になるといふので、鳥籠のやうなもの、中に子供を入れてミルクなど與へて置いて出かけるものも決して少くない。籠の鳥扱にせられて育て上げられた子供に親孝行なき、いふ上品な道徳心の生れやう筈はない。

極端な不孝者の一例を上げるにかうである。或時、私の友人が英國のロンドンの町を歩いてゐるに二人の青年が何か耳寄りなこゝを話し合つて歩いてゐるから後をつけて行くに、橋の傍に數名の乞食がゐる、所が一人の青年は乞食の一人を指していふのに「彼れは僕の父親だが、放蕩に身を持ちくづして彼の通りに零落し切つてゐるのだ」口を極めて父親の過去の罪惡を擧げ現在の境遇を嘲笑してゐたのである。こゝいふ話を私は友人から聞かされて、ツクづく日本の道徳界の健實なこゝを今更の如くに思はされた。これは徹底的個人主義から來た道徳界の癌である。我邦であつたならば恐らくソナ青年は唯の一人もゐない。斷じてない。こゝが日本精神の強味である。或西洋人が日本に來て日本は子供のバラダイス(樂園)であるといつたが、親が其の子供を愛する様は徹底西洋人の企て及ぶ所ではない。

子供を厄介者扱ひにする西洋では盛に捨子をやる。而してチャント社會施設し又慈善家の好意によつて建設せられた捨子收容所がある。そこには、戸外に抽出しがあつて、夫れに捨兒を入れるに、信號があつて、直ぐに看護婦が來て直ちに收容し

て育てる。フランスの著名な思想家ルソーの如きはアレ丈け偉い思想家であるけれども子供が生れるに育児院へやつてしまつて、六人の子供がありながら一人も其の面を知らぬといふ状態であつた。ルソーは其の懺悔録に記してあるやうに年老いて後育児院をたづねたけれどもわからなかつたといふこゝである。又古くはスバルタでは子供が生れるにアルコホルで洗ふ。するに弱い子供は死んで仕舞ふ。これは死ぬるやうな子供は育てる義務がないといふやうな考へからだ。又、ギリシヤのアテンスでも捨子を盛にやつたものである。かう見て來るに西洋人といふものは殆ど遺傳的に捨子の常習犯人であるといへる。これでは子供の方でも孝行をしやうといふ氣は起らぬが當りまへである。

老人になつても厄介者扱にせられるので、財産のないものは養老院に收容せられる。けれども西洋では養老院は殺人院であるといつてゐる。院の中に一片親切な氣分がないからである。或西洋人の如きは老人になつたらば日本に來たいといふこゝを耳にしたこゝがある。一寸話はそれるが、社會事業が西洋で發達する、日本では發達しないといふが、それはいふまでもなく西洋では社會救濟事業がなければ國內の治安を混亂させるからだ。西洋では捨子が多くあり、おいはれを捨てるといふ風だから、社會救濟事業がなくては國が立たないのである。

西洋人は個人本位に立つて生活してゐるから、十の力を有つてゐれば十丈けを自分の爲に費さうとし、我邦では家族本位郷黨本位だから、自分の爲には六の力を費し、家族子孫又郷里の爲に四の力を捧げるこゝになるから、孝行もあれば子を愛する親の愛も盛んになるのである。この四の力が自分を他の人々を連結する鎖である。我が國家成立の源はこゝにある。

我國体は上祖先より下子々孫々に至るまでの連鎖でもつて一貫してゐる。殊に神社はその根本である。愛郷心も愛國心も起り、家族制度も發達して來た。我國民が海外至る所に神社を建設するのは、かうした國風によるもので、そのこゝに在るに在る

く美しい事である。かくし我國體觀念もよく培はれる。西洋の危険思想が入つて來ても、それを誤り用ひぬ所の中心はかうした神社といふ國民生活の中心點があるからだ。神社と祖先崇拜の觀念とは國民精神を清める道場である。神社は市町村落の床の間である。

又神社は日本民族を快活ならしめ生々潑潑たらしむる根本であつて國民を樂天的ならしめる。それはお寺と比較すれば直にわかる。お寺に入つて快活味を養ふことはできぬ、樂天的たり闔達の人生を養ふことはできぬ。人間を悲觀的ならしむるのが、お寺の持前である。神社の祭禮に當つて出される地車の如きは實に其のこころをよく現はし發洩たる元氣に漲つてゐる。

印度の文豪タゴールは最初日本に來た時に、神戸に上陸したが、非常に悲觀して、戀しい日本に來ても豫想は裏切られたことを悲むといつて、我國物質文明の高潮に達してゐる神戸の光景に打たれた。世を捨てることを人生の理想とし之を尊び喜ぶ印度人から見れば、神戸の光景を一目見ずとも寫真だけ見ても失望するであらう。世捨の思想が盛なれば國家觀念は全然生れ出でぬ。十萬億士を西方に置き其の億士に大池大蓮華を想像してゐる印度民族はタゴールのやうな考へ方も起らう。

元來、日本民族は其の理想を「正直」「樂天」に置く處から、現世生活に則して活動する處の國民である。然し、此の精神は最も高く尊いものである。日本國民は現世的ではあるが此現世的ならしむる根本には確乎不動の精神力、敢爲悠大なる目に見えぬ力がなくてはならぬ。この精神力の發揮が明治以來の西洋物質文明消化の大事實となつて現はれた。又過去に於ても海外の精神文明たる佛教や儒教の如きをも取り入れたのである。而して神社がこの精神力を敢爲力の中心たることは争はれぬ事實である。死後を思ふといふ心持は本來、日本人には少い。延喜式祝詞を見てもわかることであるが、それはない。さこまでも現世的で千歳萬歳國家民族の發達を祈るのが、日本民族の理想である。又、神社で死を忌み、生を喜ぶのは、かうした日本人の如き生々發暢の國家民族を産む原因である。

そこで神社は宗教なりや、否やといふ問題を考へる順序になつて來た。宗教法案が立案せられ、同じく團體法が議會に提出されたけれども通過しなかつたが、其の立案最中には大論戰があつた。こゝには神社は宗教である、否や宗教でないといふ論戰である。宗教でなければ宗教法案に宗教でないといふ明記せよと迫る宗教家もあつた。政府の意向では神社は宗教でないといふ見地に立つてゐるから、又これは適切な見解だから、法案に明記しなくともよいのである。

そこで問題は宗教とは何ぞやといふ定義の問題だ。宗教とは耶蘇教だの佛教だのいふ開祖を有ち經典を有ち、祈禱をする所のもものが宗教であるといふ見解を有つてゐるものが多い、それも一見解であるが、神社さかういふ意味の宗教と比べて見るに神社は宗教と大に異ふ所がある。宗教には經典があり開祖があり、ヤソは天國に行き、佛は淨土に往生するといふ。然し神社にはさういふやうなことは更がない。コメニウスといふ教育家はいつた。

「人生には三つの大切なことがある。一は胎内生活。二は五十年の人生。三は永遠の生命である」

こ。佛教は彼岸をいひ、ヤソは天國をいふ。西洋の學者も上記の如く永生を人生の一に數へてゐる。然し、神社ではさうした來世の問題は一切取り扱つてゐない。又、宗教は徹底的に排他的であるが、神社はそんなことはかまわずに包容的である。宗教は世界主義であるが、神社は國家的であり國民的である。宗教の特色は世界主義であり人類主義である。神社は國家の發展皇運の扶翼を主眼とする。故に神社は宗教ではない。



神社で祈禱するから神社は宗教だといふ人もあるが、元來祈禱は神社でなければ、宗教ではできぬ筈なものである。歐洲大戦の時には、同一の基督教の神に向つて敵も味方も戰勝を祈つた。さうも人類愛を主とする基督教の神様はサゾ困られたであ



らう。もつと根本的にいへば基督教は愛、佛教は慈悲を中心に説く教へであるから之を信するものは元來。戦争ができぬわけである。佛教で祈禱をするのは神社の感化から來たもので、先年大正天皇御大漸前に北陸地方で御平癒祈禱のあつた場合の如きは眞宗別院の住職は之れ宗の本義にあらずといつて、参加しなかつたこともある。

神社は祈禱で満ちてゐる。祝詞は祈禱である。彌宜は祈りである。神主は國造今の地方長官で、神主ハフリのみヤツコ……云々祝詞を上げたものだ。これは罪穢をハフリ捨てる意味である。これが神社本來の特色である。祈禱を以て宗教の特色である。祈禱は宗教ならざる神社の特色である。

釋迦生れて直ちに七歩あゆみ、而して「天上天下唯我獨尊」といつたこといふが、これは何にも生れ落るこそういつたのでなく佛教の理想である。そこまで到達せなくてはならぬこといふことを示した理想である。釋迦がいつたことから考へるに、唯我獨尊ならば、祈禱を誰れにするのであるか、祈禱は人間が人間以上のものに申上げることであるのに釋迦がかういつたのは自分程のものはないこといふことを示してあるから、釋迦には祈禱のありやうがない。それではできぬ。廣島縣あたりの眞宗では祈禱をしないが、それが佛教の本義であらう。天台、眞言なきに祈禱のあるのは神道化した爲であらう。眞言宗が盛になつたのは本地垂迹や兩部神道を提唱したお蔭である。

祖先崇拜は日本民族の特色である。西洋風な銅像の前に頭は下らないが、神社の前には自らに頭が下る。こゝに日本民族の偉大性がある。國家觀念が生れる。神社はかくの如くに祈るを以て特色とするか、其の祈年祭は、我が國富を祈り、國家の富の増進を祈願する、ヤソ教では國富増進の祈りはできぬ。キリストの所に教を乞ひに來た青年にキリストはモーゼの十誡を示した處が、それは子供の時分から守つてゐることいつた。するにキリストはサラはお前の全財産を棄てて我に従へといつた。そ

の青年は悲しんで去つたこといふ話が聖書に載つてゐる。ヤソ教を信するには富が邪魔になることいふ位だから、國富増進の祈禱はできぬ筈である。元來天國往きが目的だから、現世の神社の如くに現世に對する祈禱はできぬ。

我邦の神社の特色は宗教に超然としてゐる處にある。故に宗教でないから、國民は之を信奉しなくてはならぬ。宗教であれば信するに信しないに自由である。宗教は人間の性に有つてゐる、人間の本質の一である。それを満足せしめることは何によらうに自由たるはいふを待たぬ。神社は國民として祖先を尊ぶの本義があるので、之を尊崇するのは國民としての義務である。

今日宗教々育といふことが盛に唱へられてゐるが、宗教心を養ふことは最も必要である。これを順序よく發達させないに迷信に陥るから最も注意しなくてはならぬ。教育勅語に

是ノ如キハ獨リ朕ガ忠良ノ臣民タルノミナラズ、又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

とあるが、祖先の遺風を顯彰する心があれば、國民としての中心點をつかんでゐる。皇祖皇宗の神社に奉仕して初めて我國民精神は高潮に達する。これが我邦宗教々育の根本義である。かく培はれた子供が大人になつて後特殊宗教に行くのも可なりである。此國民としての根柢に培はれてないのは頗る危険である。之を更に説明すれば神社は米の如く、佛耶等は酒、煙草の如きものご見るべきである。神社は我國民としては必然的であり、これが日本の特色である。然し特殊宗教は人生に於て酒煙草の如きものだから信するに信しないのは自由に見てよい。

義務教育に於て其の効果を大ならしめんことをすれば神社崇敬の念を盛にしなくてはならぬ。國民教育の根本は神社であるからだ。小學校は拜殿の如く神社は奥院の如き關係がある。故に國民教育には神社崇敬を教育の中心としなくてはならぬ。神社が教育上我邦に於て最も大切なるわけはこれが爲である。全國十一萬幾千の神社によつて國民教育は精神的統一を保たれな

くてはならぬ。而して、天皇はうつし神にましますことを明記しなくてはならぬ。この故に神社と天皇とは我が偉大なる國民生活の心臓であり、其の統制上の中心である。

殖民地へ行くに如何に神社が我日本人の中心であるかといふことがわかる。滿洲でも、朝鮮でも、臺灣へ行つても、その感は深い。神社なくしては祖國を離れた我同胞はさびしさにたへぬのである。

弘安の役に當つては四百餘州の精銳が侵入して來たが、此の時、天皇には身を以て國難に當り給はんことを伊勢神宮に祈願いたされ、又學國一致神明の加護を祈つた。かくして弘安の役は我國が大勝を博した。これを外交上から見れば頗る意義が大きい。元の大國が亡びて支那では明が起り清も起つたけれども、我邦に一指を染むることができなかつたのは弘安役の大敗に支那が懲りたからである。弘安の役に際して國民精神統一の中心となつたものは神社である。祖先崇拜の念である。弘安の役の大勝は實に我が祖先の偉業である。かゝる祖先を崇拜することは最も合理的である。これは富よりも尊く高いものである。又、世界いづれの國に行つても我邦の如くに生命財産の安全の保持されてゐる國はない。これは神社と、天皇を中心とする國家統一の實が擧つてゐるからである。

日本國民の長所は立派でみごみな國家を建設するにある。西洋で多くの科學者例へばコペルニクス、ワット、ニュートン、ダーウキンなごいふ科學者が出て物質文明を創造しつゝ、あつた間に、我邦では菅原道真、和氣清麻呂、楠木正成なごいふ忠臣が現はれて國家建設の基礎たる精神文明の淵源となつた。我國民はかくの如き精神文明の長を以て他に對抗せなくてはならぬ他の長を攝取して我が短を補ふことはよいことであるが、我が金匱無缺の皇室と此の國家とを維持することに全力を傾注しなくてはならぬ。これが實に日本民族の此の國土に於て生を享けた天からの使命である。

現代の思想悪化。我が純なる精神思想に危害を加へんことを所はあるが、以上の如き思想精神を極力宣傳することによつて思想國難の叫びもあみを断つに至るべしと信ずる。諸君よろしく神社を中心とする根本思想を國民に注入せんことに努力せられんことを。(府下神祇大會講演大意筆記文責在記者)

## 思想問題に就いて

(昭和四年四月四日豊能郡氏子總代会講演大意)

大阪府女專校長 平 林 治 德

本日の會合に一場の講演をする事は私の光榮とする所である。殊に幼少の頃から神様祭りに熱心であつた父の膝下で、知らず識らず神に對する敬虔の情を養はれた私として、神職、氏子總代、町村長等の神に縁故の深い諸君に御話するのは特殊の思ひ出さ感興を覚えるのである。

古來戰亂の後はいつても人心の動搖を免れないが、最近の歐洲大戰亂は世界全部の人間に影響を與へ、從來からも世に存した諸種の難問題を複雑化し、人心を不安に陥れた。其の結果思想問題も困難の度を加へて識者の眉をひそめしめる問題を惹起すやうになつた。昨年三月の共產黨總檢舉の如きも其のの一のあらはれであつて、當路の役人は勿論、宗教界、教育界其の他あらゆる方面で喧しく其の對策を論議せられたのであつた。論議もせられ對策も講ぜられた筈であるのに其の後の情態はさうであ

るか。次第に世はよき方に向ひつゝ、ありき云ひ得るであらうか。私は遺憾ながら然りき答へる事が出来ぬ。最近東都の新聞の報ずる所によるに、昨年三月警視廳管内の要視察人は三千三百二十一名に過ぎなかつたのが、其の後一年間に約倍の七千名に激増したといふ事である。これは一例に過ぎないが、この一例を以てしても一般人心はよき方に向ひつゝ、ありきはいひ得ない一方就職難は極端となり相當學問あり實力ある人物で職を得ない人々が非常の數に上る爲、不平を抱く者が少くない、職を得ざる年が二年三年と長くなるに従つて不平の度も強くなり、不平を感じる者も多くなるであらう、その結果危険思想を抱く青年が多くなりはいひ得ないか憂慮せられる。かれといひ之といひ我が國の現状は決して安心すべき情態ではないのである。

然らばこれが對策如何。これは重大問題であつて、今この席で簡單に解決する事は勿論出来ないが、今世に行はれる二つの觀方(樂觀論)(悲觀論)を述べ最後に私の思ふ所をあげて諸君の参考に資し度いと思ふ。



樂觀論——我が國礎はこれ位の事で動搖するやうな薄弱なものでない、いつか又大和魂を振り起して日本精神の勃興によつて危険思想を撲滅する時があるに違ひないからさほご心配する要はないと説く論である。この論者の根據は日本の歴史にある即ち外來思想の輸入によつて危機に瀕した事は今に始まらない、奈良朝或はそれ以前の儒教佛教の輸入によつて生じたあの支那カブレ、佛カブレはさうであつたか、名前までも支那人らしく三字名とし、見もせぬ支那の風物を詠じて得々ししてゐた詩人は枚舉に遑がない、遂には彼あるを知つて我あるを忘れた人々も少なくなかつた。道鏡の大逆心の如きもその結果の一つと考へられる。併しながら同時代にもこれに反對する思想も存して我國本來の思想を強く把持して、皇室中心主義を主張する人も出で幸に祖國は安泰であつた。その後の時代で、思想の混亂した時代は屢々あつた。足利時代の如きもその一で、無智蒙昧の世の悲さは有力者にして國家的觀念を喪失した人さへあつた、足利將軍義滿の如きはその大なるもので、明國に對して臣節を

執つて怪まなかつた、足利幕府の財政難を救ふ爲め、明朝から金を引出す手段であつたを辨明しても、苟も將軍職にありながら外國に臣節を執るといふ事は國辱の甚しいもので辯護の餘地はない、併し一方には北畠親房の如き國家意識の鞏固な人もあつて、その著神皇正統記により、「大日本は神國なり」を書き初め、皇室中心主義、南朝正統論を堂々論じた大家も出で、やはり我國の根本には事無きを得た。江戸時代の中期以後も混亂も免れなくて、相當の學者でありながら「東夷人の物茂卿」を稱する如き萩生徂徠をも出した。その弟子太宰春臺も心得違ひの大家でその著「辨道書」には我國を仇敵の如く悪く言つて居る。之に類する學者は他にも頗る多く今日ならば到底許されないやうな不謹慎な議論を平氣で放言して居る。考へやうによつては現今よりも危険思想が多かつたと云へる。併しやはり時代に正しい考を抱く學者も少からず出で、殊に荷田春滿以來の國學者の日本中心主義の運動はよく効を奏して遂に王政復古の大業をも成し遂げる原因を成した。



明治になつてからは泰西先進國の物質文明を輸入するのに熱中したあまり明治の初年には強い歐化思想を生じた。有名な鹿鳴館時代の狂態は言語に絶したものが有り、早く日本を開化する爲に國語を英語としようとする様な無鐵砲な議論さへも生じた。併し日清戰役に於て大國支那を破つてから日本の實力に自信を置き國民は漸くにして祖國に眼を向けるやうになつた。國粹保存主義は此時代に生じたのである。其後も或時は西洋文明を熱心に輸入し或時は日本本來の姿を闡明しようとし幾多の變遷を経たが終に今日に到つたのである。

斯の如く歴史をふりかへれば幾多の危機はあつたが何時も踏止まる、こゝが出来たのであるから現在こゝ雖もさほご心配する必要はないと説く樂觀論である。

悲觀論——歴史的に考へれば樂觀論者の説の如くであるが、人生の争は昨日まで或は何百年何千年安全であつたからと云つ

て今日も安全であるを断するわけにはいかない。而も國体及政体の變更は世界の一大勢である。歐洲大戰後青年の思想は一大變化を來した。一方機會をうかぶ人物は非常に多い。何時大事變が勃發するかもしれない云ふ説である。

我々は只歴史に頼つて拱手樂觀のみすべきでもない。又悲觀論者の如く徒に悲觀杞憂に陥るべきでもない。我々は何時も祖國に對する、自信と安心とを内心に有しつゝ、絶えざる變動に善處する努力をおこたつてはならぬ。

然らば目下の國民に尤も重要な點は何であらうか。私は言下に答へて「國体に對する正しき理解と愛とである」云ひ度い。よく思想に對するには思想をもつてせよ云ふ。現代の過激思想に對しても何處までも思想をもつて争ふべし云ふのが普通である。勿論或所までは理論的に議論するのも必要であらう。併し終局まで理論で鬭争しようとするのは利目が淡いのであるまいかと思ふ。理窟といふものは如何様にも立てられるものであつて、究極は水掛論に終る例が往々にしてある。従つて現在の思想問題に於ても理論のみを以て驕然志を更へさせようとしても及ばぬ事が多いであらう。寧ろ國に對する愛情を濃厚にするのが急務であらうと思ふ。祖國への愛情を強く抱く人ならば如何なる思想に接しようとも如何なる誘惑に遭遇しようとも間違は断じて無い筈だと思ふ。

然らば祖國への愛情を抱かするには如何なる方法をこるべきであらうか。勿論種々雑多の方法があるであらう。其の一法として——重要な一法として——我國、我國民、ひいては我自身の依つて來る所を考へしめるのがよいと思ふ。一言にして云へば歴史の價値を知らしめるのである。歴史は如何なる權力を以てしても、如何なる勢力を以てしても、人爲的に作り出すことは出来ないものである。時の力によつて生じたる價値は他の何物にも代へ難い力をもつて居る。若い者は將來をのみ見て過

去を見ない。それは若者の特色であり長所でもあるが同時に短所ともなる。我々が日常使用する物品にしても長年手がけたものに對しては特殊の愛着を感じるのは何故であらうか。其各々に時のもたらしたる價値が生じて來るからであらう。この事を思ふとき我國三千年の歴史は他の如何なる理論をも超越して尊い光を放つのである。諸外國が心算かに羨むのは此點にあり。此特殊の歴史中より生じたる我は、他國とは異り特殊の責任と愛着とを感じる筈である。我の特色を捨てるものは我を殺す者だといふ事を肯定するならば我の屬する國家の特色を失ふものは、即ち國家を殺し我を殺す事となるのである。

我國柄と不即不離の關係にある神社崇拜敬神の念の鼓吹は祖國愛の養成に最も力強いものと思ふ。總ての宗教を超越し祖先に對する報恩感謝の念の對象として先づ敬神の念を養成する事は最も肝要であらう。私自身の經驗によれば幼少の時の習慣は成長後強い底力を有するものである。こゝに御列席の諸君の努力によつて今一度敬神崇祖の念を各家庭の小兒に鼓吹することを得たならば彼等は祖國に對する愛情を強く抱き輕々しく一片の外來思想に動かされる如き事は萬々あるまいと思ふ。

324

40

昭和四年六月廿五日印刷  
昭和四年六月廿五日發行

(非賣品)

大阪府泉北郡百舌鳥村百濟一番屋敷  
發行兼編輯人 辻尾規矩彦

大阪府西區阿波座中通一丁目  
印刷人 圖司宗次

大阪府西區阿波座中通一丁目  
印刷所 日進舎印刷所

電話新町一八三〇番

發行所

大阪府東區區大手前ノ町大阪府廳內  
財團 法人 大阪國學院

電話東五〇：五五〇四  
振替口座大阪四〇七一〇番

終

